

令和3年度あきた型学校評価シート
(秋田県立能代支援学校)

評価領域

生徒指導

重点目標	学級経営を基盤とした道徳教育の推進と生徒指導の充実		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 個々の児童生徒に対する指導はよくなされているが、それが全体のものとして捉えられているのか疑問が残る。 対処療法的な事故後の対応に終始するケースが多く、学級全体で考える道徳指導が薄い。 道徳教育と生徒指導が学級経営の根幹であるという意識が薄い。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学級指導、学年指導、学部指導の中で道徳教育、生徒指導を意識した言葉掛けや、問題提起を行い児童生徒の規範意識を育むとともに、学級を児童生徒の居場所として作り上げる。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつの意味を考える」「相手の気持ちを思いやる」など、自己指導能力向上を目指し、児童生徒に考えさせる指導を行う。 学校・寄宿舎・保護者が連携し、規則正しい生活習慣の確立を目指す。 いじめの芽を見逃さず、時期を逃さない組織的な指導を行う。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 中学部において「あいさつ」がもつ意味を生徒に考えさせ、意義あることとして「あいさつ」の実践を指導する。 学校、寄宿舎、保護者での情報共有を積極的に行い児童生徒のわずかな変化を見逃さないよう実態把握に努める。 事故発生時には素早く指導体制を組み、ケース会を初めとした情報共有と共に指導のスケジュール管理を行い指導するとともに、学級内の他の生徒に対する指導にも気を配る。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 中学部生徒に形だけの「あいさつ」から心のこもった「あいさつ」への変容が見られ、他学部の児童生徒にも良い影響を与えている。 情報共有により事故の未然防止意識が高まり、全体指導に変化が生まれつつある。 児童生徒の小さな異変であっても学部主事、教頭、校長まで情報が伝わる時間が短くなり、結果として早い対応ができた。 		
自己評価	(評価) A	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートでは保護者の96%、職員の85%が本目標について「とてもよい」「よい」という評価をしている。 学校全体として問題行動の未然防止意識が高まっている。 	C
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>			
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> 学級は一人一人の心の居場所である。保護者と連携し、礼儀と思いやり、また規則正しい生活習慣の確立に向けた指導を今後もお願いします。 生徒指導の懸命さが十分に伝わるもので、保護者との信頼関係が盤石であると感じる。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組を次年度以降も継続し、一層の規範意識の醸成と礼儀正しい児童生徒の育成を目指すため、あらゆる場面において道徳性を児童生徒に考えさせる問いかけと、適時適切な指導を実践する。また情報共有の確度を上げ、さらなる職員の意識向上を図る。 		